

## ニホンカラマツヒラタハバチ <生態など> <被害と防除> <文献>

幼虫は7月上旬～8月中旬にカラマツの葉を食べる。茶色のイモムシで体長15mm前後まで成長する。枝上に糸でトンネル状の巣を作る。食害が目立つのは8月中下旬。

食害により直接木が枯れた例はない。しかし、まれながら食害で衰弱した木を穿孔性害虫が攻撃し枯らすことがある。



1. 老齢幼虫，体長18mm。1993/8/27.



2. 1の幼虫の巣。1993/8/27.



3. 被害枝，1995/8.



4. 土中の幼虫。左2頭は健全.

右2頭はヤドリバエの1種に寄生されている.



5. 交尾中の成虫。1994/6/15.



6. 卵。1994/6/30.

1～6. 弟子屈町のカラマツ林で多発した個体群.

## [戻る](#)

【学名】 *Cephalcia lariciphila japonica*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ヒラタハバチ科 (Pamphiliidae)

【分布】 北海道, 本州. 別亜種がユーラシア大陸に広く分布.

### 【特徴】

成虫は体長10mm前後. 体は黒く, 黄色の斑紋がある. 翅 (はね) は透明, 斑紋はない. 卵は俵形, 灰色っぽい緑色, 長さは2mm弱.

ヒラタハバチ類の幼虫は触角がヒゲ状で, 腹脚がなく, 尾端の左右に1本の突起 (尾肢, びし) があるのが特徴. ニホンカラムツヒラタハバチの幼虫は成長すると体長15~18mmになる. 体は食害中は茶色. 老熟するとたいてい黄色になる. 幼虫の巣は糸のトンネル状, 糞はあまり付着しない.

よく似たカラムツヒラタハバチとニホンアカズヒラタハバチがカラムツに発生する. 成虫や幼虫の色彩, 幼虫の巣の状態で区別できる. 詳しくは各々の種の解説を参照.

### 【生態】

宿主: カラムツ属 (ニホンカラムツ, ギイマツなど).

年1回発生. 弟子屈町では成虫は6月に発生する. 雌成虫は卵を輪生葉に1個ずつ産み付ける. 卵は10日ほどで孵化する. 幼虫は7月上旬に現れ, 糸でトンネル状の巣を作って葉を食害する. 食害は8月中旬まで続く. なお, 網走地方はより暖かいため, 成虫や幼虫の出現時期が10日ほど早い. 十分成長した老熟幼虫は地面に降り, 土に潜って丸い部屋を作る. この中で秋に前蛹になり越冬, 翌春に蛹化, ついで羽化する. 部屋は土窩 (どか) と呼ばれ, 非常にもろい. 部屋は地面から深さ5~20cmの土の中に作られ, 落葉層内には作らない. なお, 前蛹は蛹になりかかった幼虫のことで, 動きが鈍く, 頭部の皮膚の下の蛹の目が透けて見えることで認識できる. 前蛹にならず幼虫のまま越冬する個体がかかなりある. このような個体は翌年も土中にとどまる. 翌々春に成虫になると思われるが, 調査されていない.

### 【天敵】

土の中の幼虫で寄生蠅 (ヤドリバエ科の1種), 病原性糸状菌, 寄生性線虫による死亡が観察されている. ヤドリバエ科の1種による死亡率が最も高いが, 20~30%程度で頭打ちの傾向がある.

### 【被害と防除】 [戻る](#)

北海道では1993年に弟子屈町屈斜路湖近くで突然, 多発した. このヒラタハバチが北海道内で確認されたのはこの時が初めてである. 本州から最近侵入した害虫と考えられるが, 進入経路は分かっていない.

多発は2001年現在継続中で, 網走地方, 釧路地方で広がっている. 食害によるカラムツの枯死は観察されていないが, 一時的に木が弱るため, まれながら穿孔性害虫であるカラムツヤツバキクイムシの二次被害を受けて枯れることがある.

発生が長期化, 拡大しているため, 天敵による防除試験が1998年から進められている. 用いた天敵は道央におけるカラムツヒラタハバチ被害の終息に貢献した寄生蜂 (ヒメバチ科の1種, *Homaspis* sp.) である. このヒメバチは人を刺すことはなく, ヒラタハバチ科以外の昆虫には寄生しない. 2001年現在, このヒメバチは道東の試験地に定着したが, 寄生率はまだ数%である.

このヒラタハバチが発生している林で間伐を行う場合は、カラマツヤツバキクイムシの被害を防ぐため、伐倒した木は林内に放置しない。また、間伐は秋から冬に行う。詳細はカラマツヤツバキクイムシを参照。

【文献】 [戻る](#)

1995. 真宮靖治, 中村直子, 杉本和永, 山岡好夫. 玉川大学弟子屈演習林におけるカラマツおよびグイマツのヒラタハバチ被害とそれに関連する昆虫病原性*Steinernema*属線虫. 日本林学会論文集, 106: 455-456. (グイマツやカラマツF 1での被害状況, 寄生線虫確認)

1996. 前藤薫, 福山研二. カラマツを食べるヒラタハバチに注意. 森林保護, 251:6-7. (生態や被害.)

1996. 佐藤滝也. 弟子屈町のカラマツ林で発生したヒラタハバチの一種の被害と生態. 森林保護, 254:29-31. (生態や被害.)

1997. Shinohara, A. Web-spinning sawflies (Hymenoptera, Pamphiliidae) feeding on larch. Bull. natn. Sci. Mus. , Tokyo, Ser. A. , 23: 191-212. (分類, 形態, 過去の文献の整理, 過去の被害の要約.)

1997. 真宮靖治, 溝部大司郎, 杉本和永, 山岡好夫. 玉川大学弟子屈演習林におけるカラマツ林, グイマツ林のヒラタハバチ被害3年目の実態. 第108回日本林学会講演集: 235. (カラマツヤツバキクイムシの二次被害による枯損.)

\*1998. 原秀穂, 林直孝. ヒメバチによるニホンカラマツヒラタハバチの生物的防除の検討. 森林保護, 268: 41-44. (天敵導入試験の開始状況, 密度や天敵の推移.)

\*1999. 原秀穂, 林直孝. 寄生蜂によるニホンカラマツヒラタハバチの生物的防除の取り組み. 日本林学会北海道支部論文集, 47: 70-72. (天敵導入試験の開始状況, 大発生地での密度や天敵の推移.)

\*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ニホンカラマツヒラタハバチ hirataha/nihokara/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000/1/21.

1yochu1.JPG, 1yochusu.JPG, zenyo.JPG, 1seichu.JPG, 1tamago.JPG

「写真1～2, 4～6」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993-1994.

1higaied.JPG

「写真3」 佐藤滝也, 釧路北部地区林業指導事務所, 1995.